

一般社団法人日本小児看護学会

2022 年度 第 1 回定時社員総会（評議員会）議事録

日時：2022 年 5 月 29 日（日）13:00～15:22

場所：Zoom を使用した Web 会議

理事：荒木暁子、井上由紀子、加藤令子、来生奈巳子、塩飽 仁、二宮啓子、野間口千香穂、萩原綾子、平林優子、三上千佳子、三輪富士代、渡邊輝子

監事：飯村直子、古谷佳由理

選挙管理委員長：内正子

評議員出席者：有田直子、飯野英親、石浦光世、伊藤久美、岩崎美和、上原章江、及川郁子、及川裕子、大須賀美智、大西文子、小川純子、長田暁子、小野智美、金泉志保美、鎌田佳奈美、川名るり、河俣あゆみ、草野淳子、小迫幸恵、込山洋美、近藤美和子、今野美紀、杉浦太一、祖父江育子、染谷奈々子、武田淳子、泊 祐子、名古屋祐子、新家一輝、仁尾かおり、西田志穂、西田みゆき、濱田米紀、日沼千尋、平田美佳、藤田優一、古橋知子、本田順子、松浦和代、松岡真里、横山由美（五十音順）

出席社員数：59 名（会場 53 名、委任状 6 名）

欠席社員数：1 名

【開会】

出席者数の確認

司会の野間口副理事長より、13:05 に開会が宣言され、出席者の確認があった。一般社団法人日本小児看護学会評議員数 60 名（2022 年 5 月 29 日現在）のうち、会場出席者 52 名、委任状による出席 6 名、欠席 1 名であり、定款第 27 条 2 項により評議員の過半数の出席を満たしていることから、社員総会が成立した。なお、議事録作成のために動画録画の承諾の確認をした。

理事長挨拶

COVID-19 の感染拡大も落ち着いてきた状況とはいえ、気を緩めることが出来ない状況の中、臨床・教育の場でご苦勞の多い日々をおくられていること推察する。今年は 3 年ぶりに、対面も併用した学術集会ができることを非常に嬉しく思っている。本日は学会の運営について、この一年間の報告とこれから一年間の活動予定等について活発な議論をお願いしたい。

議事録署名人の承認

定款第 29 条により、社員総会の議事録署名人として、岩崎美和評議員、長田暁子評議員が推薦された。出席した評議員の 50 名に対し承認のための決議を行い、投票者 49 名中賛成 49 名、100%の賛成で承認された。

議長選任

定款第 26 条により、理事長塩飽 仁氏が議長に任命された。

【報告事項】

1. 一般社団法人日本小児看護学会 2021 年度理事会報告（p. 1）

塩飽理事長より資料に基づき報告された。

- 1) 第 1 回理事会報告（2021 年 5 月 9 日 web 開催） 社員総会の資料と進行について確認された。新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）と子どもの療養生活 WG として調査を継続していくことが確認された。
- 2) 第 2 回理事会報告（2021 年 8 月 1 日 Web 開催） 一般社団法人として理事会の議事録および資料は 10 年間保管し、それ以前のは処分して差し支えないこと、今後は電子的な保管を進める等して資料管理の簡素化を図ることが説明された。
- 3) 第 3 回理事会報告（2021 年 10 月 30 日 Web 開催） 学会印（角印）の電子印鑑導入および文書発行申し合わせについて承認された。JANA ガイドラインに基づき、小児看護学会における COI 管理指針（案）について報告された。日本小児看護学会誌投稿規定改正案、日本小児看護学会誌査読ガイドライン改

訂案について承認された。

- 4) **第4回理事会報告(2021年12月19日 Web 開催)** 小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針の改定について説明され、修正後最終版を今年度内に印刷予定とすることが承認された。成人との混合病棟における小児の療養環境における子どもの療養環境向上のための具体的対策普及のためのポスター案について協議した。病院機能評価事業における評価項目に日本小児看護学会として申し入れていくことが確認された。
- 5) **第5回理事会報告(2022年3月20日 Web 開催)** 小児看護領域における若手教員のサポート事業について、教育委員会で担当いただくことが承認された。本学会のCOI管理指針について指針に関する意見を募集することが説明された。入会システムの入力欄等の改修の実施が説明され、承認された。

2. 2021年度定時社員総会報告(2021年5月30日 Web 開催)(p. 4)

Zoomを使用したWeb会議で行われた。出席者49名(会場出席者46名、委任状3名)、欠席社員5名であった。

【報告事項】

資料の通り報告された。

【審議事項】

資料の通り報告された。

3. 事務局報告(p. 5)

2021年度の正会員入会者数は114名、正会員復会者数が0名、退会者数が264名で、1年間で150名の減員であった。2021年度末現在、会員数2,162名、正会員2,149名、名誉会員9名、賛助会員4名であった。地区別の会員数は資料の通りであった。会員の内訳は教育関係1,017名、医療関係会員数924名であった。正会員の会費納入率は83%であることが報告された。

4. 事業報告

各委員長より、2021年度の事業報告について、資料に基づいて報告された。

1) 学術集会報告(p. 6)

埼玉県立大学保健医療福祉学部の添田啓子氏を会長として、2021年6月26日(土)、6月27日(日)に開催された。メインテーマを「コラボレーションで小児看護の未来を拓く」とし、LIVE配信とオンデマンド配信、チャットによる質問機能、テーマセッションはZoomで相互交流、で行われた。口演31題、示説49題で参加者数は1,290名であった。

2) 総務委員会報告(p. 6)

- ①理事会、社員総会、会員集会の運営を行った。
- ②総務委員会は年5回(理事会前にオンラインで)開催した。
- ③学会の運営を行った。
- ④外部団体との連携活動を行った。ウクライナ侵攻への声明を発出した。

3) 編集委員会報告(p. 6)

- ①学会誌第30巻の編集・J-STAGE公開した。
- ②学会誌第30巻の冊子発行を予定、2402部印刷した。
- ③学会誌掲載論文転載許諾申請3件を承諾した。
- ④投稿規程改正・査読ガイドラインの改訂を行った。
- ⑤J-STAGE公開論文のメディカルオンラインにおける電子配信を行った。

4) 広報委員会報告(p. 7)

学会ホームページの更新、メールマガジンの配信、ニュースレターの発行を行った。

5) 学術・研究推進委員会報告(p. 7)

- ①日本小児看護学会研究奨励賞の選考を行った。
- ②第12回(2022年度)研究助成について、理事会での承認を得て助成を決定した。
- ③第6回川出富貴子国際発表助成は、採択なし。第7回の募集案内を行った。
- ④第31回学術集会の開催方法の変更の検討、企画、準備、運営の補助、第32回学術集会の企画、準備の補助を行った。

6) 教育委員会報告 (p. 8)

- ①人材養成研修 e-learning の運営および集合研修 2 回を行った。
- ②地方会を開催した。
- ③日本小児神経学会主催「第 19 回医療的ケア研修セミナー」の共催として委員長が参加した。

7) 倫理委員会報告 (p. 9)

- ①小児医療・保健・福祉の現場での実践者・教育者・研究者の倫理的感性・意識向上に向けた活動として、第 31 回学術集会でテーマセッションの開催と子どもの権利擁護のための研修会の開催、「日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針」の改訂に取り組んだ。
- ②倫理委員会作成の指針の活用状況の把握及び、周知に向けた活動を行った。

8) 小児看護政策委員会報告 (p. 10)

- ①小児看護に関する政策提言に向けて活動を行った。
- ②小児看護領域における高度実践看護 (APN) の役割の明確化に向けて活動を行った。
- ③健やか親子 21 (第 2 次) 推進協議会等での参加団体としての活動を行った。
- ④日本医療事故調査支援センターへの協力を行った。

9) 診療報酬検討委員会報告 (p. 10)

- ①令和 4 年度診療報酬改定要望書に関しての対応に備えた。
- ②小児病棟の夜勤に対する体制の実態調査について、郵送法で質問紙調査を行った。
- ③診療報酬にかかわる説明会や委員会に参加し活動した。
- ④診療報酬について、学会員への啓発活動を行った。

10) 国際交流委員会報告 (p. 11)

- ①2022 年 3 月～2023 年 3 月に開催される国際カンファレンスの紹介を行った。
- ②研修会を開催した。
- ③Asia Pacific Paediatric Nursing Association (APPNA) 理事会に参加した。
- ④The 17th Asia Pacific Congress of Pediatrics and the 7th Asia Pacific Congress of Paediatric Nursing の開催準備を行った。
- ⑤The 7th Asia Pacific Congress of Paediatric Nursing からの依頼に対応した。
- ⑥World Academy of Nursing Science (WANS) 将来計画に関する特別委員会に参加した。
- ⑦World Academy of Nursing Science (WANS) 加盟学会・団体代表者会議に参加した。
- ⑧第 7 回 WANS カンファレンス: Symposium3 のシンポジストを協議し推薦した。

11) 災害対策委員会報告 (p. 11)

- ①地震発生時の情報収集と対応を行った。
- ②各地区の災害ネットワーク作りを行った。
- ③教育推進活動として災害に関する啓発のための研修会を開催した。なお学会員以外の参加は 38 名で 76,000 円の収入があったが、参加費の徴収を業務委託のクレジット決済で行ったため、手数料を引いた 66,976 円が参加費の収入となった。
- ④第 31 回学術集会にてパネル展示を行った。
- ⑤学会ホームページにおける災害関連情報の整理を行った。
- ⑥災害支援に関する情報や委員会活動についての広報を行った。
- ⑦災害支援事業の助成の選考と交付を行った。
- ⑧関連団体との連携を行った。

12) 選挙管理委員会報告 (p. 13)

- ①活動内容をニュースレターおよび学会 HP へ広報を行った。
- ②次期選挙に向けてスケジュールや告知の方法などについての検討を行った。

13) その他

なし。

質疑応答

質問なし。

(10 分間休憩)

【審議事項】

1. 2021 年度決算

三上理事より 2021 年度会計報告 (p. 14)、2021 年度特別会計報告 (p. 15)、貸借対照表 (p. 16)、正味財産増減計算書 (p. 17)、財産目録 (p. 18)、非営利性が徹底されていることの確認書 (p. 19) について資料に沿って報告された。非営利性が徹底されていることについて、塩飽理事長により署名・捺印されたこと、特別会計は一般会計に繰り入れし、2021 年度をもって閉じることにについて説明が加えられた。

2. 2021 年度監査 (p. 21～23)

飯村監事、古谷監事にて、2022 年 5 月 12 日に 2021 年度決算報告について監査を行い、会計帳簿、証拠書類を照合調査の結果、収支決算書に相違ないことが報告された。決算および監査報告について質疑はなく、決議権のある 52 名に対し決議を行い、投票者 52 名中賛成 51 名（無効 1）で可決された。

3. 2022 年度事業計画案 (p. 24～26)

2022 年度事業計画案について、各委員長より資料に沿って説明があった。総務委員会から利益相反管理指針（別添資料 1）の策定と教育について詳しい説明があった。質疑はなく、決議権のある 52 名に対し決議を行い、投票者 52 名中賛成 50 名（無効 2）で可決された。

4. 2022 年度予算案 (p. 27)

三上理事より資料に沿って予算案が説明された。質疑はなく、決議権のある 52 名に対し決議を行い、投票者 52 名中賛成 51 名（無効 1）で可決された。

5. 名誉会員の承認について

蛸名美智子氏と草場ヒフミ氏が新規名誉会員として推薦され、質疑はなく、決議権のある 52 名に対し決議を行い、投票者 52 名中賛成 50 名（無効 2）で可決された。また、新規名誉会員 2 名が、第 32 回学術集會に参加された場合、名誉会員証を授与する場を設ける予定であることが理事長より説明された。

6. 2024 年度 第 34 回学術集會会長の承認

第 34 回学術集會会長として、加藤令子氏が、理事会から推薦された。決議権のある 52 名に対し決議を行い、投票者 52 名中賛成 51 名（無効 1）で可決された。

7. 2023 年度 第 33 回学術集會会長挨拶

第 33 回学術集會会長の東邦大学 教授 荒木暁子氏から挨拶があった。日程は 7 月 15 日・16 日場所は東邦大学大森キャンパス、開催方式はハイブリット方式で予定していることが説明された。

8. 2022 年度 第 32 回学術集會会長挨拶

第 32 回学術集會会長の福岡市立こども病院 看護部長 三輪富士代氏から挨拶があった。

【閉会】

塩飽理事長より、すべての議題の終了が宣言され、15:22 一般社団法人日本小児看護学会 2022 年度の社員総会が閉会した。

配布資料一覧

- ・一般社団法人日本小児看護学会 2022 年度社員総会（評議員会）資料
- ・一般社団法人日本小児看護学会（JSCHN）利益相反管理指針（案）（ver. 1.0）別添 1

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により
以上の議事を認め署名押印する。

2022 年 6 月 28 日

議長

議事録署名人

議事録署名人

塩 飽 仁
岩 崎 美 和
長 田 暁 子

